

踏み跡 < My mountains >

丹沢	水無川源次郎沢廻行	No.064
----	-----------	--------

昭和41年6月13日

水の流れを遡って山に登ることは、何というか一本の川の生涯を見るようで、非常に興味深い。それに、正直言って丹沢あたりの沢登りなら交通費も安いし、日帰りできるし……、そんな訳でまた丹沢に入ることになった。

パートナーは三ヶ月ぶりに加藤、そう月曜日でデパートは定休の日だ。加藤はカンちゃんという女の子を連れてきた。妹ぐらいの感じの子だった。

新宿発7時05分の急行。渋沢に8時05分に到着し、バスで大倉に着いたのは9時20分。

大倉から水無川の林道を戸沢まで入り、ここから沢に入った。水無川のゴーロを進み、源次郎の出合いに10時30分に到着。

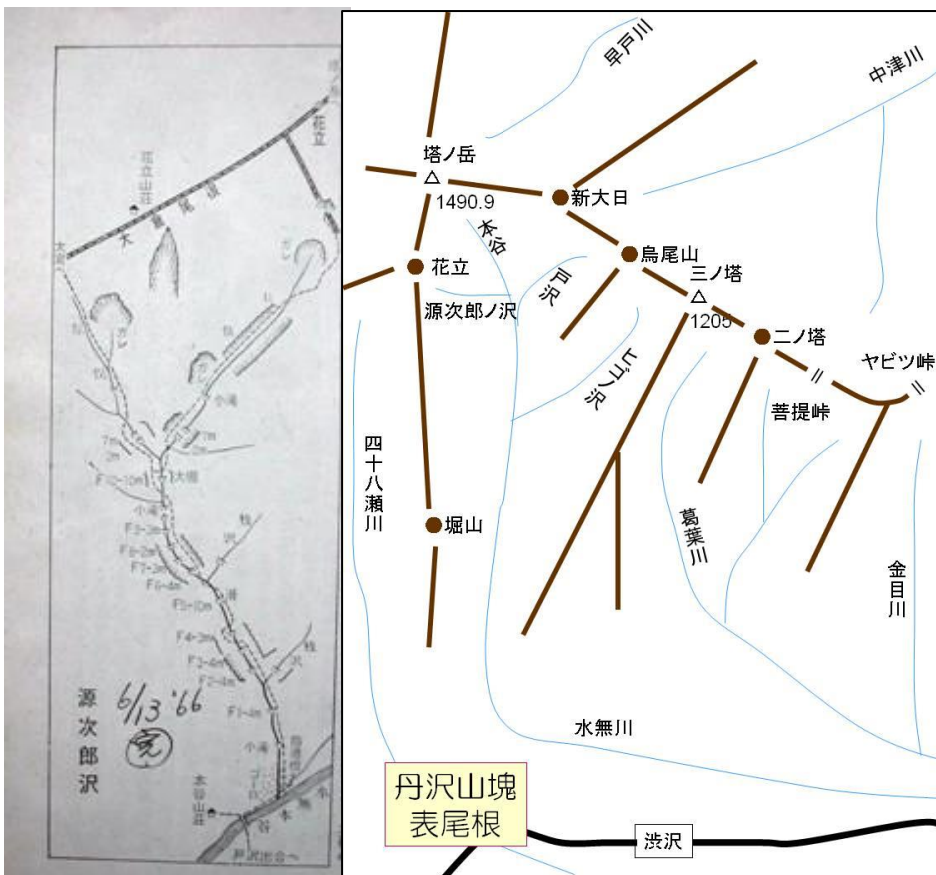
出合いからは単純なゴーロの連続で、難しいところはひとつもない。雨の後で水量は多いが、さして問題にはならない。と言うよりも、瀬音の大きさがかえって初夏の雰囲気盛り上げてくれて気持ちがいい。

落差 10m 程度ではあるが F10 は意外な大きさスケールを感じる。チョックストーンのような岩塊が落ち口で水流を二つに分けている。左手の草つきが一見登りやすそうに見えるが、ホールドが小さくて困難。一番楽そうなルートとして、右側の水流の左手を水流ぎりぎりに登ってみた。ホールドもスタンスもたっぷりあり、いいルートだったが、増水の折ゆえ右半身は見事に濡れてしまった。

最後のガレは予想以上に広く、前のパーティの落石に随分悩まされたが、早めに藪の中の踏み後を見つけて沢筋を脱出したため頭に落石が当たることなく済んだ。

大倉尾根の花立山荘に飛び出したので、塔ノ岳を往復してから下山。17時30分に大倉に帰着。

今回は試みに草鞋を使用して見たが、調子がよかった。小さなスタンスを求める時や苔むす岩などでは靴よりはるかに歩きやすいという印象だった。



以上

<蛇足> 水無川、地図(五万分の一 秦野)を眺めると面白い。丹沢山塊の中では立派な沢だが、秦野盆地に入ると伏流となって姿を消してしまう。川の名前の由来はこんなところにあるようだ。

新宿→渋沢 220円
 渋沢⇄大倉 60円
 渋沢→谷保 240円
 合計 520円
 安価な遊びだった。

(修正・更新:2023年11月)